

平成29年度 私立神戸野田高等学校「学校評価表」

A よくできた(5点) B できた(4点) C あまりできなかった(2点) D できなかった(1点)

領域	評価の観点	評価の項目	実践目標	評価
学校運営	開かれた学校づくり	家庭や地域への情報発信	1 学校のホームページや学年通信・学校案内等を通じて学校からの情報を適宜発信できたか。	3.9
		地域との運営・貢献	2 特別活動や生徒会活動等を通して、地域との連帯・地域への貢献ができたか。	2.7
		地域や関係機関と連携した安全な学校づくり	3 地域や近隣の学校・関係機関と連携を密にし、不審者情報等を共有できたか。	3.6
		オープンキャンパス	4 地域の中学生や保護者に対して、本校の学校教育への理解が得られたか。	4.1
	生徒指導	生徒指導の共通理解と指導体制の推進	5 生徒指導の申し合わせ事項を職員が共通理解し、温度差のない指導ができたか。	3.4
		生徒理解	6 教職員が生徒一人一人の内面理解に努めながら、生徒との人間的な関わりを深め、互いに心の通じ合う人間関係を築けたか。	3.7
		教育相談	7 心の問題を抱える生徒に対しスクールカウンセラー、教育相談担当者、養護教諭、場合に応じて対外関係機関と密接な連携をとりつつ対応ができたか。	3.8
		基本的な生活習慣の確立	8 挨拶や服装、遅刻防止、通学マナー等、基本的な生活習慣について適切に指導できたか。	3.5
		生徒会の指導	9 生徒会行事を精選し、内容を充実させ、生徒の主体的な活動を支援し、指導ができたか。	3.4
		部活動の指導	10 部活動を通じて挨拶等生徒指導のいっそうの充実を図り、効率的な活動を推進し、学業と両立させたか。	3.9
	進路指導	多様化する生徒への進路指導	11 進路指導部と各学年が連携し、組織的に多様な生徒に対して個に応じた指導ができたか。	3.6
		進路情報の収集	12 進路についての情報や資料の収集・整備に努め、学年に応じてその活用を図ることができたか。	3.8
		進路指導計画の作成と実践	13 3年間を見据えて、進路指導に関する年間計画を作成し、組織的・継続的に進路指導を実施できたか。	2.8
		進路結果の分析と対策	14 進路状況・結果について、進路指導部と各学年が連携、分析と検証を行い、その結果を以後の指導に反映できたか。	3.1
	教職員の資質向上	校内職員研修計画の作成と実施	15 進路指導・生徒指導・教務等、学校の諸課題について校内研修を計画的に立案し、実施できたか。	3.3
		教科指導力の向上と工夫	16 各教科で公開授業や研究授業を行い、生徒の興味・関心を呼び起こすべく授業改善に努めたか。	3.6
		教員パソコンの活用	17 教材作成や情報収集、研究・発表等に教員用パソコンが活用できたか。	3.0
	危機管理体制の整備	防災・危機管理マニュアル	18 学校の実情に応じた防災・危機管理マニュアルを作成し、効果的に対応できたか。	4.0
		家庭・地域との連携	19 家庭・地域・関係機関と連携した危機管理体制を推進できたか。	3.3
		職員研修	20 危機への対応や生徒の心のケアについて研修できたか。	3.2
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	教科指導力の向上と工夫	21 教科会議などを中心に体験的・問題解決的な学習の指導法を研究し、実践できたか。	3.2
			22 基礎・基本を定着させるため、指導方法を工夫できたか。	3.7
	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間の取り組み	23 総合的な学習の時間は、生徒の興味・関心を把握し、ニーズにあった学習テーマを設定できたか。	3.0
	個に応じた学習指導の徹底	コース別授業	24 特進3コースにおいて、コース別授業は個々の到達度に応じた学習指導を行ったか。	3.5
		学校の個性化・多様化	教育課程の成果と検証	25 特進3コースは進路実現も含めて十分に教育成果を達成できたか。
			26 進学総合コース(キャリアコース)は進路実現も含めて十分に教育成果を達成できたか。	3.2
	学校の特色		27 来年度入学者に向けて、いっそう特色を図ることができたか。	3.2
			28 学校設定科目は生徒の興味・関心をとらえて十分な教育成果を達成できたか。	3.4
			29 特進コース(進学総合コース)における男女共学化は、当コース、及び学校全体の活性化につながったか。	4.0
課題教育	高大連携	高大連携の推進	30 「高大連携」の実現に向けて、具体的な準備作業を行ったか。	2.5
	人権教育	人権教育の推進	31 3年間を見通した人権学習の充実を図り、計画的に実施できたか。	2.7
	防災・安全教育	保健指導の充実	32 生徒一人一人の心身の健康状態について、教職員間、家庭、学校医等と連絡をとり、適切な健康管理・保健指導を行ったか。	3.7
		実践的な安全教育の取り組み	33 大地震等の大災害が発生した場合に、マニュアルに即して迅速・的確に対応できる体制にあったか。	4.0
			34 心肺蘇生法、AED等の応急処置の講習を実施し、緊急時の対策や体制の整備を図ったか。	4.2
教員の防災教育に係わる指導力の向上	35 防災訓練を行う前に職員による打ち合わせ・研修を十分に行ったか。	3.7		

平成29年度 学校評価アンケート結果

1 観点別評価順位					
順位	観点	評価	順位	観点	評価
1	防災・安全教育	3.9	7	自ら学び考える力の育成	3.4
2	生徒指導	3.6	8	進路指導	3.3
3	開かれた学校づくりの整備	3.6	9	教職員の資質向上	3.3
4	個に応じた学習指導の徹底	3.5	10	総合的な学習の時間	3.0
5	危機管理体制	3.5	11	人権教育	2.7
6	学校の個性化多様化	3.4	12	高大連携	2.5

2 評価の高かった評価項目			3 評価の低かった評価項目		
1位	実践的な安全教育の取り組み	4.1	30位	高大連携の推進	2.5
2	オープンキャンパス	4.1	29	地域との運営・貢献	2.7
3	防災・危機管理マニュアル	4.0	28	人権教育の推進職員研修	2.7
4	家庭や地域への情報発信	3.9	27	進路指導計画の作成と実践	2.8
5	部活動の指導	3.9	26	総合的な学習の時間の取り組み	3.0
6	進路情報の収集	3.8	25	教員パソコンの活用	3.0

〈おわりに〉

ここ数年続いている学校改革の流れの中、様々な課題が山積している。特に学校生活の根幹となる生徒指導については、全職員の意識向上、意思を統一した一貫性のある指導が望まれる。生徒の現状や将来を見据えた指導方針、指導計画を再検討して、実効性のある指導方法を打ち出し、指導の強化を図りたい。

進路指導については共学化・進学校化に伴い生徒の進路意識・志向が変化している。今年度、進路情報の収集・整理やデータ分析等一步前進を見た。進学校化に対応する進路体制構築を進路指導部が中心となり、まずは3年間を見据えた進路指導計画を完成させ、本校独自の進路指導体制と方法の確立を目指したい。

教科指導については、昨年度より着手した授業改革が本格的に始まった。研究授業や公開授業、授業実践についての研修や交流、また教科会議を定例化し、意見交換や情報交換の機会を設けた。授業研究やシラバスの検討等、教科指導力の向上に向け取り組みを進めている。

これらの進路指導や授業の改革を推進するため、校外の研修会への参加を奨励し、校内でも職員研修の機会を増やし職員の意識向上と力量アップを図っている。

さらに、来年度は本格的なICT教育とそれに伴う情報通信施設・機器の整備や職員研修等、新しい大きなプロジェクトが始動する。これら様々な改革を推進する一方で、日々の地道な校務が疎かにならぬようしっかりと足下を固めると共に、働き方改革や校務の合理化、日々激務に追われる職員の健康状態への配慮も大きな課題である。